

平成 30 年度 第 2 回 水工学委員会 議事録 (案)

日 時：平成 30 年 11 月 25 日(日)18:00～21:00

場 所：北海道大学 学術交流会館 第 1 会議室
(北海道札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

出席者：小松利光，木村一郎，清水義彦，清水康行，泉典洋（代理：内田龍彦），大石哲，竹林洋史，中山恵介，中津川誠，朝位孝二，鼎信次郎，風間聡，里深好文，立川康人，山田朋人，駒井克昭，梅田信，川越清樹，浅沼順，今村正裕，石平博，宮本仁志，関根正人，田中規夫，知花武佳（代理：赤松良久），天野光歩，二瓶泰雄，渡邊明英，横山勝英，原田守博，鈴木正人，戸田祐嗣，小河健一郎，入江政安，堀智晴，角哲也，藤田一郎，吉田圭介，矢島啓，張浩，矢野真一郎，杉原裕司，堀田哲夫（以上，敬称略）

欠席者：辻本哲郎，山田正，中川一，寶馨，道奥康治，沖大幹，川口智哉，神田学，炭田英俊，諏訪義雄，田中仁，中込淳，岡田知也（以上，敬称略）

記 録：駒井克昭

<資料の訂正>

会議に先立ち，配布資料のタイトルと開催場所が訂正された。

<報告事項>

1. 平成 30 年度水工学論文集編集作業（宮本） （報告資料 1）
産官学の投稿割合はほぼ例年並み。参加者数は水工学講演会後に検証する。例年通り，水文，水災害の分野からの投稿が多い。開催を前倒ししたが，問題なく編集は進んだ。メール審議は経費削減に貢献した。本年度の企業広告は 12 社であった。海岸工学委員会と同程度の 30 社を一つの目標とする。
2. 各部会，小委員会，関連委員会の活動報告および活動計画 （報告資料 2）
 - 部会：水文部会，河川部会，基礎水理部会，環境水理部会
 - 常置小委員会：ISO/TC113，水害対策
 - 研究小委員会：流量観測高度化，グローバル気候変動適応研究推進
 - 関連委員会：出版委員会，減災・防災委員会，河川懇談会，海岸，CommonMP，流域管理と地域計画の連携，沿岸域気候変動，沿関連，地球環境，環境システム，ISO 対応，アゲールシンポ

水文部会（大石）：資料の通り，報告された。

河川部会（渡邊）：河川シンポジウム報告（6 月）：参加者 624 名，岡村先生が受賞。来年度河川シンポ 6/12-13. 〆切 1/25. 12 月初旬に HP に掲示。

基礎水理部会（木村）：資料の通り，報告された。
環境水理部会（矢島）：資料の通り，報告された。
ISO/TC113（堀田）：資料の通り，報告された。1)「第4条（事業）」規定（案）の改訂について，「2. 国際規格案に対する・・・」が承認された。
水害対策（風間）：資料の通り，報告された。
流量観測高度化（藤田）：資料の通り，報告された。
グローバル気候変動適応研究推進（矢野）：資料の通り，報告された。研究討論会は100名以上参加された。適応策WSは「2月か3月」→「4月」を予定。
減災・防災委員会（風間）：資料について，報告された。スムーズな連絡・調整のため，災害対策フローを作成した。
河川懇談会：報告なし
海岸（入江）：資料の通り，報告された。論文数が減っている。CEJの投稿数が増えている。次年度の海岸工学講演会は2019/10/23～25@鹿児島を予定。
CommonMP（立川）：資料なし
流域管理と地域計画の連携（立川）：テーマは「まちづくり」，「避難」をセットに
沿岸域気候変動（矢野）：資料の通り，報告された。
沿関連，地球環境，環境システムISO対応：報告なし
アゲールシンポ（鼎）：本日，無事に実施された。

3. 水理公式集編集小委員会報告（清水） （報告資料3）
資料の通り，報告された。12月発刊予定。H11年版では各都市で講習会を開催したので，今回も講習会実施を検討する。
4. 土木学会論文集B部門合同編集小委員会報告（内田） （報告資料4）
資料の通り，報告された。土木学会論文集B部門で西日本豪雨災害の特別企画の投稿を募集する。JJSCEの国際ジャーナル化について，各分冊にESCIジャーナルにするために近々参考文献を英文併記とすることを要請される可能性がある。
5. 平成30年度第23回水シンポジウム（静岡）（竹林） （報告資料5）
台風のため，現地見学会は中止。報告書は1月以降にWebに掲載予定。
6. 平成30年度第54回水工学に関する夏期研修会（山口大学）（朝位） （報告資料6）
西日本豪雨災害の影響が大きく参加者が少なかったため，残念ながら赤字になった。
7. 学術交流基金平成31年度ジョイントセミナー実施テーマの推薦（竹林）

資料なし。過去に水工学から推薦されていなかった。ベトナムでのセミナー（東北大・田中先生）を推薦することが報告された。

8. 全国大会共通セッションの推薦 （報告資料7）
セッションの提案「気候変動による影響への適応」（矢野）が説明され、推薦が了承された。
9. その他
特になし。

<協議事項>

1. 平成31年度の年間スケジュール（竹林） （協議資料1）
資料の通り、スケジュール案が説明された。来年度も今年度と同様のスケジュールとすることが承認された。
2. 平成31年度第64回水工学講演会（埼玉）（田中） （協議資料2）
資料の通り、実施計画が説明され、承認された。2019年11月4日～6日を予定。さいたま市の会議助成申請に間に合わなかったため、今後は早めに対応する必要がある。
3. 平成31年度水工学論文集編集作業（宮本） （協議資料3）
資料の通り、スケジュールが提案され、承認された。最終原稿のべ切を1週間だけ前倒した。
4. 平成31年度第24回水シンポジウム（滋賀）（竹林） （協議資料4）
資料の通り、実施計画が説明され、承認された。
5. 平成31年度第55回水工学に関する夏期研修会について（名古屋大学）（戸田）
（協議資料5）
資料の通り、実施計画が説明され、承認された。主担当が海岸工学委員会。伊勢湾台風60年なので名古屋で開催予定。
6. 河道管理研究小員会の設置依頼（戸田） （協議資料6）
資料の通り、「河道管理研究小員会」の設置に向けた説明がなされ、承認された。今年度から活動する。
7. JSCE2020におけるアクションプランの提案（竹林） （協議資料7）

資料の通り、企画委員会からの依頼について説明された。JSCE2015とは違って、1件当たりの予算が500万円つく可能性もある。JSCE2020には地震災害だけでなく水害も土砂災害も入る。12/10にヒアリングがある。水工学委員会として取り組めるアクションプランを提案することが承認された。委員からのアクションプランの提案が依頼された。

8. 部会・小委員会への活動費について

(協議資料8)

資料の通り予算状況が説明され、年度途中であるが活動費を配分することが提案され、承認された。

9. その他

特になし。

<次期水工学委員会委員長選挙>

次期委員長選挙が実施され、群馬大学の清水義彦教授が委員長に選出された。